

# 平成 25 年度中間決算報告書



株式会社エフエム東京

## 営業の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策に対する期待感を背景に円高の是正や株価の回復が進み、国内生産や輸出持ち直しにより緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、広告市場においては、個人所得の伸び悩みに加えて消費税増税を控え消費マインドへの影響が懸念され、先行き不透明な状態が続いています。

このような事業環境の中、当中間連結会計期間における当社グループの売上高は89億6千万円（前年同期比0.8%増）、営業利益は6億5千7百万円（前年同期比4.2%増）、経常利益は8億2千5百万円（前年同期比16.6%増）、中間純利益は5億4千5百万円（前年同期比29.2%増）となりました。

当社単体の業績については、JFN38局の全国ネットワークを活かし、ソーシャルメディアをはじめとする統合メディア展開を実践したことにより、売上高は70億4千7百万円（前年同期比1.2%増）、営業利益は5億9千2百万円（前年同期比8.7%増）、経常利益は6億8千7百万円（前年同期比0.5%増）、中間純利益は4億5千1百万円（前年同期比1.6%増）となりました。

連結事業セグメント別の営業状況は以下のとおりです。

### <放送事業活動>

当社は、「アースコンシャス～地球を愛し、感じるこころ」、「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」の理念を放送活動の基軸とし、「優しさと思いやりと温かみのある番組作り」の実践により聴取者から共感をいただいています。

平成25年4月の番組改編では、平日午後の時間帯に、旬な情報にひそむ意外な事実やストーリーを掘り下げオフィスリスナーたちに知的発見を届ける「アポロン」(月～木曜 13:00～14:55)、ラジオの中の会社という設定で、リスナーがWEB掲示板を通じて会議に参加、20代の給与生活者のコミュニティ創出を目指す「Skyrocket Company」(月～木曜 17:00～18:45)の2つの生ワイド番組をスタートさせました。週末には、アウトドアライブに夢とロマンとアソビ心を感じる大人向けのラジオドラマ「ピートのふしぎなガレージ」(土曜 17:00～17:55 全国ネット)、パリの裏町の名画座を舞台に映画好きのゲストが名作のウンチク、エピソードを語る「日曜シネマテーク」(日曜 15:30～15:55 全国ネット)を編成、リスナーの想像力を誘発するコンテンツ強化に取り組みました。

また、統合メディア展開の一例として、人気レギュラー番組「あ、安部礼司」(日曜 17:00～17:55 全国ネット)では、番組キャラクターが7月にJFN各局を訪問しながらロングドライブし、Twitterのつぶやきにより各地に駆けつけたリスナーとの交流、公開イベントを実施、行く先々に多数のリスナーが集結し大きな反響を呼びました。8月には、「ラジオは究極の映像芸術、人間の想像力が最も発揮されるのが恐怖」であるとする脚本家倉本聰演出によるホラーラジオドラマ「山霧の深い晩」(原作北條秀司)を放送(8月14日 20:00～21:40)、FM放送ならではの音像表現として話題を集めました。また、9月の伊勢神宮式年遷宮を記念し、日本の伝統文化を再認識する特別番組「未来へと続く森～伊勢神宮が見つめてきた日本」を制作。倉木麻衣による参集殿奉納コンサートでは、東日本大震災の流木で製作されたヴァイオリンの演奏と共に鎮魂の祈りを伝えました(9月28日 22:00～22:55 全国ネット)。

東日本大震災から3年目を迎え、当社では被災地の復興を支援する様々な活動に継続して取り組んでおります。

震災直後からスタートした支援番組「LOVE & HOPE～ヒューマン・ケア・プロジェクト」(月～金曜 6:31～6:40 全国ネット)では、被災地の人々の復興への取り組み、被災地の観光、イベント、物産情報などを継続して全国に伝えています。また、被災地3県の沿岸部300kmに「森の防潮堤」を築く「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」に参画し、レギュラ

一番組「いのちの森 voice of forest」（日曜 7:30～7:55 全国ネット）を通じて植林を支援しています。そのほか、10代のリスナーに高い支持を得ている「SCHOOL OF LOCK!」（月～木曜 22:00～23:55／金曜 22:00～22:55 全国ネット）では、人気バンド SEKAI NO OWARI との共同制作による復興支援チャリティ・リストバンドを継続的に販売し寄付を続けています。

更に、今後想定される大規模地震などの自然災害に対して、FM メディアの公共的使命を果たすため、当社をはじめとする JFN38 局は、9月1日防災の日に、全国に24,000の郵便局を有する日本郵便株式会社と「災害時における地域情報ネットワーク構築に関する協定」を締結しました。これは、災害時に現地の郵便局から提供される周辺の被災状況や郵便窓口の運営状況等の有益な情報を被災地へ、さらには全国に迅速に伝えることにより被災者への支援を目指すものです。11月には全国に店舗を展開するイオン株式会社との提携も決定しており、今後も業種を越えた総合防災ネットワーク構築を進め、災害報道体制の強化に取り組んでまいります。

「V-Lowマルチメディア放送」に関しては、9月27日に総務省より「V-Lowマルチメディア放送及び放送ネットワークの強靱化に係る周波数の割当て・制度整備に関する基本的方針（案）」が発表されました。当社の意見が幅広く反映された形で制度案が完成、11月の電波監理審議会を経て認定され、年度内にハード事業者の認定が完了する見通しです。制度整備の進捗に合わせ、受信端末では、シャープ株式会社の協力により、スマートフォン型の試作機が完成、この秋開催された CEATEC JAPAN 2013にて展示を行いました。また、コンテンツ・サービスについても「マルチメディア放送ビジネスフォーラム」を平成25年3月末より再開、9月末現在で117社に及ぶ会員企業・団体の参画を得て、ワーキンググループ毎に新規サービスの開発を進めており、平成26年夏の放送開始に向け、着々と準備を進めております。

#### <企画・制作事業活動>

当社のステーションメッセージ「アース&ヒューマンコンシャス」を象徴するイベントとして毎年4月に世界に向け発信しているアースデーコンサートは今年で24回目を迎え、「EARTH×HEART LIVE 2013」と銘打って開催。日本の人気バンド flumpool と、アジアで高い人気を誇る台湾のロックバンド Mayday が環境問題をテーマに競演、ライブの様子は、JFN38 局に加えアジアをはじめ世界各国で放送されたほか、YouTube でも世界へ配信しました。また、会場募金や番組に寄せられた募金はコンサートの収益の一部とともに「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」に寄付しました。

当社が「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」の一環として平成22年から展開している社会貢献活動「HelloSmile（子宮頸がん予防啓発プロジェクト）」では、4月に通算7回目となる「HelloSmile Live 2013」を開催、5月には設立90周年を迎えた日比谷野外音楽堂での野外ライブを実施するなど、人気アーティストが予防啓発を呼びかけました。

このほか、4月には韓国の大人気グループ JYJ の3年ぶりの来日公演を3日間にわたって東京ドームで開催し15万人に及ぶ観客を動員しました。また、7月には日比谷野外音楽堂を舞台に、日本の JAZZ 界を代表する「渡辺貞夫×山下洋輔」の競演コンサートを実現。さらに8月にはサザンオールスターズ、山下達郎、9月には B'z、いきものがかり等、日本を代表するアーティストのコンサートを主催し、大きな反響を得ました。

#### <インフォメーションプロバイダー事業活動>

連結子会社ジグノシステムジャパンでは、主力事業である携帯電話端末向けコンテンツ配信事業において、スマートフォン向けサービスやソーシャルゲーム・コンテンツの開発強化等に取り組んでおります。

5月から新たにスタートしたNTTドコモの定額アプリ使い放題サービス「スゴ得」への自社コンテンツ提供を開始、KDDIの同種のサービスである「auスマートパス」に加え収益基盤を拡大しました。また、ゲーム部門においては、人気シリーズの最新作を従来のGREEに加えMobage向けにもサービス展開するなど、配信プラットフォームの拡張に努めました。

一方、企業向けアプリやWEBサービス等の開発受託を行うソリューション事業部門では開発受託案件の受注が好調に推移し売上を伸ばしました。

#### <貸貸事業活動>

オフィスビル「JFNセンター」、「メディアセンター」等の貸貸事業を展開しました。

#### <その他の事業活動>

TOKYO FM少年合唱団は、フェニーチェ歌劇場日本公演「オテロ」に出演したほか、「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」に参加する等、一段とレベルの高いコンサート活動に取り組みました。その他、本社および貸貸用オフィスビル内の直営2店舗によるレストラン事業を展開しました。

## 前年同期比較中間損益計算書（連結）

平成25年4月1日～平成25年9月30日

（単位：千円）

勘定科目	平成26年3月期中間期 (H25. 4. 1～H25. 9. 30)	平成25年3月期中間期 (H24. 4. 1～H24. 9. 30)	前年同期比
売上高	8,960,414	8,885,593	100.8%
売上原価	5,672,238	5,683,960	99.8%
売上総利益	3,288,175	3,201,632	102.7%
販売費及び一般管理費	2,631,166	2,570,858	102.3%
（内のれん償却額）	64,152	64,161	100.0%
営業利益	657,008	630,774	104.2%
（売上高営業利益率）	7.3%	7.1%	
営業外収益	200,366	116,773	171.6%
営業外費用	31,683	39,489	80.2%
経常利益	825,691	708,057	116.6%
（売上高経常利益率）	9.2%	8.0%	
特別利益	16,351	—	—
特別損失	18,783	2,458	764.0%
税金等調整前中間純利益	823,260	705,599	116.7%
法人税、住民税及び事業税	57,297	63,165	90.7%
法人税等調整額	209,611	210,287	99.7%
少数株主損益調整前 中間純利益	556,351	432,146	128.7%
少数株主利益	11,282	10,196	110.7%
中間純利益	545,068	421,950	129.2%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 前年同期比較中間損益計算書（当社単体）

平成25年4月1日～平成25年9月30日

（単位：千円）

勘定科目	平成26年3月期中間期 (H25. 4. 1～H25. 9. 30)	平成25年3月期中間期 (H24. 4. 1～H24. 9. 30)	前年同期比
売上高	7,047,333	6,964,458	101.2%
売上原価	4,487,749	4,552,312	98.6%
売上総利益	2,559,584	2,412,146	106.1%
販売費及び一般管理費	1,966,688	1,866,804	105.4%
営業利益	592,895	545,342	108.7%
（売上高営業利益率）	8.4%	7.8%	
営業外収益	124,094	172,349	72.0%
営業外費用	29,544	33,997	86.9%
経常利益	687,446	683,694	100.5%
（売上高経常利益率）	9.8%	9.8%	
特別利益	12,268	—	—
特別損失	16,957	1,458	1162.6%
税引前中間純利益	682,756	682,235	100.1%
法人税、住民税及び事業税	49,297	50,480	97.7%
法人税等調整額	182,275	187,609	97.2%
中間純利益	451,183	444,145	101.6%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 前年同期比較売上高内訳書(当社単体)

平成25年4月1日～平成25年9月30日

(単位:千円)

	平成26年3月期中間期 (H25.4.1～H25.9.30)	平成25年3月期中間期 (H24.4.1～H24.9.30)	前年同期比
売上高	7,047,333	6,964,458	101.2%
放送事業収入	6,049,219	6,140,779	98.5%
放送収入	4,124,488	3,994,583	103.3%
タイム放送料	2,994,408	2,925,725	102.3%
スポット放送料	1,130,079	1,068,858	105.7%
制作収入	1,051,664	1,019,116	103.2%
その他	873,066	1,127,079	77.5%
企画事業収入	669,119	498,293	134.3%
賃貸事業収入	280,468	278,265	100.8%
その他事業収入	48,526	47,120	103.0%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 49期(上期)広告会社取り扱い順位

### <総合順位>

49期	48期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツーディ・ケイ
4	7	大日本印刷
5	11	クオラス
6	9	第一通信社
7	4	東急エージェンシー
8	6	ビデオプロモーション
9	10	オフィスフラッグス
10	5	マッキャンエリクソン

### <タイム>

49期	48期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツーディ・ケイ
4	8	大日本印刷
5	7	第一通信社
6	9	オフィスフラッグス
7	4	東急エージェンシー
8	6	ビデオプロモーション
9	10	クオラス
10	15	マッキャンエリクソン

### <スポット>

49期	48期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	4	アサツーディ・ケイ
4	14	クオラス
5	7	放送文化事業
6	10	大日本印刷
7	3	マッキャンエリクソン
8	17	インスマート
9	6	東急エージェンシー
10	12	伝創社



# 平成26年3月期 中間決算短信

平成25年11月29日

会社名 株式会社 エフエム東京

URL <http://www.tfm.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 千代 勝美

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営企画室長 (氏名) 吉田 乾朗

TEL (03)3221-0080

配当支払開始予定日 平成25年12月10日

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成26年3月期中間期の連結業績 (平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期中間期	8,960	0.8	657	4.2	825	16.6	545	29.2
25年3月期中間期	8,885	1.0	630	31.6	708	60.0	421	111.7

	1株当たり中間純利益		潜在株式調整後 1株当たり中間純利益	
	円	銭	円	銭
26年3月期中間期	608	37	—	—
25年3月期中間期	470	96	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
26年3月期中間期	35,381		26,220		73.2	
25年3月期	35,701		25,573		70.8	

(参考) 自己資本 26年3月期中間期 25,902百万円 25年3月期 25,262百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金					
	中間期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
25年3月期	60	00	60	00	120	00
26年3月期	60	00				
26年3月期(予想)			60	00	120	00

## 3. その他

(1) 当中間連結会計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 無

② ①以外の会計方針の変更 無

③ 会計上の見積りの変更 無

④ 修正再表示 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む) 26年3月期中間期 900,000株 25年3月期 900,000株

② 期末自己株式数 26年3月期中間期 4,057株 25年3月期 4,057株

③ 期中平均株式数 (中間期) 26年3月期中間期 895,943株 25年3月期中間期 895,943株

(参考) 個別業績の概要

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期中間期の個別業績 (平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 個別経営成績 (%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期中間期	7,047	1.2	592	8.7	687	0.5	451	1.6
25年3月期中間期	6,964	4.3	545	14.9	683	30.6	444	53.4

	1株当たり中間純利益	
	円	銭
26年3月期中間期	501	32
25年3月期中間期	493	49

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
26年3月期中間期	34,941		26,723		76.5	
25年3月期	35,169		26,185		74.5	